

2014年1月発行

Mother つうしん

No.27

MOTHERとは、Movement Organ Transplant Hyogo Emergency Rescueの頭文字をとったもので、『移植医療の理解促進と、臓器提供を待つ患者の願いを実現するため』に運動をすすめています。

市民フォーラム開催 文化人が語る“私の意思表示” 2013.12.15(日)

改正法施行後3年 臓器移植を話し合いましょう！

協議会主催の第2回いのちと移植フォーラム、文化人が語る“私の意思表示”(写真右下)を兵庫私学会館で開催しました。参加者は20名。

まず、地元神戸からお招きしたマスコミ関連のお二人の講師から我が国の1968年の和田移植以後の脳死問題にまつわる話をベースに、臓器移植の現状と今後の課題について話されました。その後、参加者の方たちからの質問と、臓器移植について講師と参加者との間で熱く話し合われました。両講師の講演の趣旨は以下の通りです。

“いのち”の問題と向き合うべき 講師：慶山 光男氏(よしやまみつお)

(神戸新聞社 論説委員)

慶山氏は、様々な社会の変化の中で“いのち”の問題をどう受け止め、どう向き合っていくのかという問題と並行して、臓器移植の問題を見ていかないと社会の目が中々移植には向いてこない様に思う。

死後の臓器提供はドナーの死を前提としており、人の死に対する畏敬の念がベースにないと今後、移植への関心や深い理解が進んでいかないと思う。今後、教育の中で“いのち”の問題を教えていく中で、移植の問題も10年から30年かけて多層的に取り組んでいくことが大切と思う、と述べた。



死後の臓器提供はドナーの死を前提としており、人の死に対する畏敬の念がベースにないと今後、移植への関心や深い理解が進んでいかないと思う。今後、教育の中で“いのち”の問題を教えていく中で、移植の問題も10年から30年かけて多層的に取り組んでいくことが大切と思う、と述べた。

地道な積み重ねこそ大切！ 講師：吉島 一彦氏(よしじまかずひこ)

(神戸夙川学院大学 教授)

マスコミ出身の吉島氏は、いわゆる和田移植について当時を振り返り、同脳死移植が密室で行われたことが大きな社会問題となり、私たち科学部(読売新聞社科学部 35年勤務)では『和田移植の様に密室での医療を今後、繰り返してはいけない』と言い合せていた。80年代以降、当時、国の脳死移植でリード役をしていた大阪大学の曲直部(まなべ)教授に司馬遼太郎さん(当時、産経新聞記者)が取材した折、彼から『あなたは日

本の風土と戦(いくさ)をしていますよ。中々難しいですよ』と言われたことを後で教授からお聞きした。その意味で「死生観」は現在もそんなに変わっていないと思う。そんな中で現在の様に脳死移植が年 45 例前後というのはとても大きなこと。

今後、臓器移植件数が飛躍的に増えることは少ないと思われるが、地道に伸ばして行くことが大切。また、教育では、人生の先輩とか人の臨終に多く立ち会った宗教家たちがもっと教育の現場や市民講座などに出て行って話すべきと思う。今後、人の死や生を考えることが大切であり、死生学の専門家の方たちも現場に出て行って、平易なことばで話してもらうことが大切と思われる、と述べた。(文責：川瀬 喬)

活動報告

臓器移植推進キャンペーン

第 24 回こうべ福祉・健康フェア

2013.10.6.(日) しあわせの村

健康・福祉に関する正しい知識の普及・啓発を目的とした「こうべ福祉・健康フェア」が開催され、兵庫腎移植の会と共同で参加。参加者は 6 名、好天の下、私たちは、会場で「臓器提供意思表示カード」の配布と正しい臓器移植の知識を参加者たちにやってもらうアンケート・クイズ(10 問)を実施しました。



第 4 回臓器移植推進チャリティゴルフ大会 2013.9.29.(日)

武庫の台ゴルフコース

臓器移植を推進する第 4 回チャリティゴルフが武庫の台ゴルフコースで開催されました。参加人数 59 名。当日は天気もよくトップは 8 時にスタートし、私も 9 時 30 分にスタートしました。

体調は良かったのですが、一緒に参加した姪が最初からバーディスタートだったので、肩に力が入ってしまい、ボールが思った通りにいかずイライラするばかり。長年のゴルフ歴はあっても進歩はありません。少し肩の力が抜けてきたかと思った頃には最後のホールになっていました。(表彰式で挨拶する米田准三相談役)



表彰式ではコンペルームに参加者全員が集まり、和気あいあいと懇談しながら次回の健闘を誓い合っていました。ちなみに私の育てた大根や白菜や水菜など 11 種類の野菜を景品として提供させて頂きました。(記事:NPO 法人兵庫県腎友会会長 森利孝さん)

VISSEL 神戸の試合前に

「意思表示カード」を配布

2013・6.22(水)、同年・8.21(水)

参加者は私も含めて4名、事務所から「意思表示カード」2,000部を運ぶのに、参加者全員が広い会場に不案内のため台車を借りることも出来ず、会場を右往左往しましたが、何とか手分けして運び対処しました。(助田敦さん談)



出前授業

テーマ “GIFT OF LIFE”

講師：川瀬 喬

- | | | | |
|-----------|----------------|------------------|-------|
| ○神戸夙川学院大学 | 2013. 6.28(金) | 生命倫理学 2~4 年生 | 43 名 |
| ○兵庫医科大学 | 2013. 9.13.(金) | 社会福祉学 1 年生 | 123 名 |
| ○神戸親和女子大学 | 2013.10.25.(金) | 医療福祉論 2 年生 | 41 名 |
| ○神戸学院大学 | 2013.10.30.(水) | 医療ソーシャルワーク論 2 年生 | 80 名 |
| ○園田学園女子大学 | 2013.11. 7.(木) | 成人保健 4 年生 | 78 名 |
| ○関西学院大学 | 2013.12.11(水) | 医療福祉論 2 年生 | 37 名 |

いつもは授業を都倉会長と分担してやっていましたが、本年は会長が体調不良のため、本年は移植者の小生が担当することになりました。テーマを“GIFT OF LIFE(いのちの贈りもの)”として、臓器移植の歴史から我が国の現状と課題について話を進めました。授業後感じたことは、若い生徒たちに移植の話をすると彼らはとても関心が高く、真剣に聴いて考えてくれます。今後も他の学生たちに話す機会があれば、積極的に出向く様にしたい。

受講後の関西学院大学の生徒(3年生、女性 S.S さん)の感想文を以下に紹介します。『臓器移植には、生命倫理が深く関わるので複雑な問題があると思う。世界的な臓器不足も深刻な状況と思われる。臓器提供の意思表示率においても、日本は他国に比べて低く、まだまだ移植医療が定着していないと感じた。しかし、脳死と判定された患者さんの家族が提供するべきか否か本当に苦渋の決断であると思う。』

脳死の時点でも、まだ心臓が動き死んでいない、生きているのだと信じたいという気持ちはとても理解できるので、移植を待つ患者のことまで考えるにはとても胸が痛いだらうと思った。また、生体肝移植において健康な人から患者に移植するには問題があると聞いたことがあり、リスクが伴うのだということも考えなければならぬ。それでも移植は今後の先端医療を担う治療のひとつであるため、国民の理解や普及のために学校教育で移植に関する授業により“移植医療”の意義を正しく伝えていく必要があるのだとあらためて思いました。』



私の移植体験

NPO 法人日本移植者協議会 理事 渡邊 源喜(わたなべ もとき)

幼い頃から心臓疾患を抱え、20歳になるまで生きられないと言われていた私が、今40代の人生を過ごせているのは、心臓を提供して下さった方とご家族の方々のお陰です。感謝の気持ちを込めて私の移植体験について綴ります。

小学校入学前には長い距離を歩くことも走ることもできなかった私は、10代の終わりに車いすの生活となり、命の危険を感じた20代後半に移植を受けることを決断しました。待機は数年に亘り、入退院を繰り返すか自宅のベッドの上でじっと過ごすかのどちらかでした。

それだけに、手術後の変化は驚きの連続でした。ICUから一般病棟に移って本格的にリハビリが始まると、歩いても息切れせず、運動すると身体が温かくなり、身体を動かすことが楽しいと感じました。全てが初めて体験することばかりで、その都度、感謝の気持ちが心から湧いてきます。1日1日と自分の身体も心も変化していくのを実感し、リハビリの時間は最高に楽しい時間となりました。「もっと歩きたい、もっと動きたい」という気持ちが私を突き動かしてくれました。

このような身体と心の変化をもたらして下さったご提供頂いた心臓を、私は「頂いた」のではなく「(提供を決断して下さったご家族から)お預かりしている」と捉えています。

大切な、大切なお預かりものである心臓が胸の中で鼓動を打つのを感ずる度に、感謝の気持ちと、より長く、より強く、より心豊かに生きていこうと決意を新たにしています。

これからは、移植にかかわる4つの権利(臓器をあげたい、あげたくない、臓器をもらいたい、もらいたくないという権利)を尊重しつつ、移植を必要とする人が救われ、臓器を提供された方とご家族の方に敬意が示される社会づくりのために多くの方と共にかかわっていきたいと考えています。

ご寄付を頂戴しました。誠に有難うございました。臓器移植の普及啓発推進のために大切にに使わせて頂きます。

○兵庫腎疾患対策協会様、 ○(財)敬愛まちづくり財団様、
○旭化成ファーマ(株)様、 ○アステラス製薬(株)、 ○イレブン・ミューズ様、

協議会の活動を進めるために会費の納入にご協力を！

当協議会の活動へのご支援を有難うございます。会費の納入をお願いします。会員の種別は以下の通りです。

正会員：2,000円、賛助個人会員：1,000円、賛助団体会員：10,000円(一口)
郵便振替用紙に、必要記載事項(氏名、住所、電話番号、会員の種別)をご記入してください。 □座名：兵庫県臓器移植推進協議会 □座番号：00950-9-243407

